

# すなお

令和3年2月号

中和大教会創立130周年記念祭 執行  
令和3年10月10日(日)

おやのことば

何ぼ賢うても  
人間思やんは  
その場だけより  
治まらん。

明治三十九年二月十八日



今月のおやのことば「なんぼ賢うても人間思案は、その場だけより治まらん」と仰せです。私達は今、科学や医学が進み何でも解るように思います。昔の人達が知らないようなことを、私達は知っています。つまりとても賢いと言えます。でも、その考えや思いが人間思案、自分を中心に自分を一番に考えたことなら一時的に治まったように見えても本質的な治まりはいただけないということです。

現在、世界中が必死になってコロナウイルスに向かっています。もちろん、この努力は素晴らしいことですが、そうしたことに関わっている方々の思いは人々の助かりを願うことだと思います。しかし、次の段階で国同士の争いの種になったり、個々の意見が前面に出てくると本来良きこととして始まったことが、何とも言えない悲しい局面に変化してしまっています。この事こそ、本当の治まりでないことを示していると思います。

どこまで行っても、人たすける心がなければ治まらないということです。お互いが一つ一つの行動に人たすける心があるのかないのかを思案しながらつとめていただき、本当の治まりをいただいて下さい。

会長



## 霊祭日程変更

3月の霊祭は10日の午後7時よりつとめさせていただきます。よろしくおねがいします。

## すなお (立教184年2月号)

通巻 No.727  
発行所 天理教瀬戸路分教会  
794-0007 今治市近見町4-5-10  
☎ 0898-23-5004  
FAX 0898-23-5123  
発行日 2021.2.16  
責任者 二宮英治



## 天理生活を終えて

菅家菊美

思い返すとあっという間の天理での11年半を終え、この度愛媛に帰ってきました。10月から修養科に行かせていただきましたが、正直何が何でも修養科に行きたいという強い思いはなく、タイミング的にも今なのかな、でも仕事を辞めてまで行く意味があるのか…。というのが正直な気持ちでした。

そんな中、直前になって自身に身上をいただき入学できるか分からない状況となりました。きっと教祖が心定めしなさいとお急き込み下さっているに違いないと思いつつも体調の回復もままならず、今回は難しいかなと思っていました。

しかし沢山の方の支えもあり、修養科に行こうと決心がつき、無事に3か月通らせていただきました。これまでおちばの近くで生活していましたが、働いている時は忙しさを理由に神様の方から足が遠のいていた事もありました。知らないうちに不足が多くなり、ほこりを積んでいたように思います。

そういった私の言動で相手にも不足を積ませてしまっていたかもしれません。天理教逸話篇の“天に届く理”の中で、教祖は「どんな辛い事や嫌な事でも、結構と思うてすれば、天に届く理、神様受け取り下さる理は、結構に変えて下さる。なれども、えらい仕事、しんどい仕事を何ぼしても、ああ辛いなあ、ああ嫌やなあ、と、不足不足では、天に届く理は不足になるのやで。」とお諭し下されていると、修養科で聞かせていただきました。

自分にもそういう心が育っていたならと、これまでの自分を見つめ直すことができました。修養科での生活はこういった気づきや、様々なきっかけを頂くことができました。修養科での出会いや教祖と向き合うことのできた時間はこれからの私にとってとても大切なものとなりました。修養科で掴んだ喜びを大切に、新しい地でも頑張っていきたいと思います。

## 教会ニュース

昨年10月から修養科に入学してつとめてくれていた菅家菊美さんが、昨年末無事に修了されました。期間中はコロナウィルス拡大中の影響もあり、3ヶ月間一人の修養科生としてつとめ切ってくれました。（原稿あり）



## 不自由な中にもよろこびを

田中道則

数ヶ月前から教会の月次祭で地方もマスクをしてつとめるようになりました。コロナが拡大し始めた頃に初めてマスクをして朝づとめをした時、息が上手く吸えず声を出すと酸欠で頭が痛くなりました。また思うように吸えないと高音が出ないので、しばらく1オクターブ下げていました。

それでも毎日のおつとめでマスクをつけたまま慣れていくと声が出るようになり、地方でもしっかり声が出るようになりました。今はいろんな事に制限がかかっています。だから何もしないのではなく、今だから出来る事もあると思います。こんな事も出来るようになったと喜べる日々になりたいです。



## 心の成人

椿 信代

先日とある事情で夫と言い合いになり、しばらく悩むことがありました。そこから数日が経ち、自分の中では消化できたつもりでしたがやはりどこかで許しきれないと感じていたところ、会長さんから電話をいただいたので相談をしました。

色々と思いを伝え、でも解決策は出ないかもしれないと思った矢先に「それは信代自身が相手を主人として立てられていないから起きる問題じゃないか？」と、思いもよらぬ核心を突かれました。

夫とは同い歳ですが、日常の様々なことに気付くという点では私の方が精神的に大人だろうと感じていて、それが無意識のうちに相手を見下したり高慢な気持ちや態度に繋がっていました。夫を責めるばかりで自分のことを棚に上げていたことに気付かされ、本当に申し訳なくなりました。

今回、自分では考え及ばなかった部分を指摘されて、やはり会長さんは信仰者として先輩だと思い、成人の手助けをいただけて本当にありがたく思いました。この思いをしっかり持ち続けられるよう、次の週末にはおちばへ帰り、おやさまに報告させていただこうと思います。